

国際会計基準審議会御中

(社)日本証券アナリスト協会  
企業会計研究会

## 公開草案「その他の包括利益の項目の表示」についての意見書

日本証券アナリスト協会の企業会計研究会は、表記公開草案に対して意見書を提出する。日本証券アナリスト協会はアナリスト教育試験制度を運営する非営利法人で、23,000名の検定会員を擁する。企業会計研究会は当協会の常設委員会で、アナリスト、ポートフォリオマネジャー、公認会計士、学識経験者を含む14名の委員で構成され、国際会計基準審議会（以下IASB）や企業会計基準委員会（以下ASBJ）の公開草案に対して意見を表明すると共に、ASBJや金融庁と意見交換をしている。

### 全体的なコメント

我々は、純損益の重要性を一貫して主張してきたところであり、公開草案が「はじめに」およびBC20において「当審議会は、業績の測定値としての純損益を廃止する予定はない。純損益は引き続き明確に表示され、1株当たり利益の計算に必要とされる出発点であり続ける。」と明記した点を非常に高く評価する。そして、IAS第1号の第7項、第10項(B)で、「包括利益計算書」の表題を「純損益及びその他の包括利益計算書」へ修正することは、IASBが純損益の重要性を再認識した象徴的な出来事と受け止めている。但し、この純損益は、企業の生涯を通じたクリーンサープラス関係を維持するためにフルリサイクリングされた純損益であることが決定的に重要であると、我々は考えている。<sup>1</sup>

以下、個別の質問に関して、我々の意見を述べる。

### 質問1

当審議会は、包括利益計算書の表題を、IFRS及び他の公表文書で言及する際には、「純損益及びその他の包括利益計算書」に変更することを提案している。これに同意するか。同意する理由又は同意しない理由は何か。どのような代替案を提案するか。

---

<sup>1</sup> OCI項目を全てリサイクルすると、企業の生涯を通算したキャッシュフロー、純利益、包括利益の合計額は全て等しくなる。当意見書では、これを「企業の生涯を通じたクリーンサープラス関係」と呼んでいる。このとき、1決算期では包括利益と資本（資本金+留保利益+その他包括利益累計額（AOCI））との間、および純利益と（資本金+留保利益）の間にクリーンサープラス関係が成立する。2本のクリーンサープラス関係は、B/SとP/Lをより強固に結びつけるであろう。我々は留保利益とAOCIでは情報の硬度と質において本質的な相違があると考えており、この相違を的確に反映するためにも2本のクリーンサープラス関係は必要である。

我々は、2009年4月13日にIASBへ提出した『討議資料「財務諸表の表示」についての意見書』（以下2009年4月意見書）で、「純利益は企業の継続的なパフォーマンスの代表的な指標の一つであり、包括利益はこれに企業のリスク・プロファイルを加味したものと考えれば、二つの利益指標を同じように明瞭に示すことで、投資意思決定により有用な情報が提供されるであろう。」と主張し、その後もASBJへ提出した意見書などで同じ主張を繰り返してきた。

今回のIASBによる表題の変更提案は我々の主張に沿うものであり、IASBが純損益の重要性を再認識した象徴的な出来事として高く評価している。我々は、この純損益が企業の生涯を通じたクリーンサープラス関係を維持するためにフルリサイクリングされた純損益を指すとの前提で、IASBの提案に同意する。

## 質問2

本提案は、純損益及びその他の包括利益計算書を2つの部（純損益及びその他の包括利益の項目）で表示することを企業に求めることとなる。当審議会は、これにより表示の首尾一貫性が高まり、財務諸表の比較可能性が高まると考えている。これに同意するか。同意する理由又は同意しない理由は何か。どのような代替案を提案するか。

2009年4月意見書では、単一の計算書と2計算書のどちらが良いか、我々の意見は分かれた。これに対して、公開草案はIAS第1号の第12項、第81項(2)を廃止することで、2計算書を認めないこととした。しかし、BC14に示された「2つの部を持つ純損益及びその他の包括利益計算書を求めることにより、純損益とその他の包括利益との明瞭な区分が維持されることになる」というIASBの結論は、2計算書の支持者へも十分な配慮があり、納得できる。17頁と18頁の例示を見る限り、「当期純損益」と「当期の包括利益合計額」という二つの利益指標が、単一の計算書の中で明瞭に区別して表示されている。この表示は、二つの利益指標を明瞭に表示することは、投資意思決定に有用であるという我々の主張に沿ったものになっており、同意する。

なお、ED10項は「企業は「包括利益計算書」等の名称も用いて良い」としているが、上記の趣旨から勝手な名称変更は許容せず、「純損益及びその他の包括利益計算書」に統一すべきだと考える。

## 質問3

本公開草案は、その他の包括利益(OCI)の項目のうち、その後の期間で認識の中止の際に純損益に振り替えられる(リサイクルされる)ものを、純損益に振り替えられないOCIの項目と区別して表示することを企業に求めることを提案している。このアプローチを支持するか。支持する理由又は支持しない理由は何か。どのような代替案を提案するか、またその理由は何か。

支持しない。我々は企業の生涯を通じたクリーンサープラス関係が維持できるというメリットから、現行の日本基準や米国基準と同様に、OCI項目は売却等で実現した損益を純損益に反映（リサイクル）する方が良いと考えている。2010年6月に当協会の検定会員向けに実施したアンケート調査でも、「今後、包括利益が明示的に開示される中で、両者の間に位置する純利益として望ましいのは次のうちどれですか。」という質問に対して、690名の回答者の過半数が「リサイクリングを行うべき」と回答している。

A 営業利益で事業からのキャッシュフロー、包括利益で資産価値変動リスクを反映した当期の業績が見られるので、中間にある純利益は資産価値変動前のボトムラインとして当期に実現した利益とすべきである（リサイクリングを行う）。	53.9%
B 持続的な業績のボトムラインとして純利益に現在の経常利益的な性格を持たすべきであり、持ち合い株の売却損益や年金の数理計算上の差異等は含めるべきでない（リサイクリングは行わない）。	40.3%
C その他	5.8%

リサイクルするOCI項目とリサイクルしないOCI項目を区別して表示する第82項A(a)の提案は、リサイクルしないOCI項目の増加を前提にしているとしか考えられない。代替的見解のAV3でエンゲストローム氏が主張している様に、「何がOCIに表示されるべきか、OCIに表示された項目のうちどれをどの時点で純損益に振り替えるべきかを決定するための徹底的な概念的議論を行うべき」であると、我々も考えている。こうした議論を経ずに、第82項A(a)をIFRS第1号に盛り込むことに、我々は強く反対する。

IASBの提案に従ってリサイクルしないOCI項目が増えると、留保利益とその他包括利益累計額(AOCI)の区分が曖昧になり、これは財務諸表の質と信頼性を低下させることを我々は懸念している。IASBは、現行の日本基準や米国基準が企業の生涯を通じたクリーンサープラス関係を維持するため、フルリサイクリングを採用している意味を、もう一度よく考え直して欲しい。リサイクルしないOCI項目が増えていけば資本の変質が避けられなくなることを十分に認識して、リサイクリングについて検討していただきたい。

## 質問5

当審議会の評価では、

- (a) 本提案の主な便益は次のとおりである。
- (i) 所有者以外に係る資本の変動を同一の計算書に表示する。
  - (ii) 現在のIAS第1号にある選択肢を除去することにより、比較可能性を改善する。
  - (iii) 純損益とその他の包括利益の項目との間の明確な区分を維持する。
  - (iv) OCIに表示される項目を、その後において純損益に振り替えられる可能性のあるものと、その後において純損益に振り替えられないものとに分類することを求めることにより、それらの項目の明瞭性を改善する。
- (b) 本提案のコストは最小限のはずである。現行のIAS第1号を適用する際に、本修正案を

適用するのに必要な情報を企業は持っていないからである。  
当審議会の評価に同意するか。同意する理由又は同意しない理由は何か。

我々は質問3に対して現時点で第82項A(a)をIFRS第1号に盛り込むことはリサイクルしないOCI項目の増加を前提にしているとしか考えられないと述べたところであり、上記(a)のうち(iv)には同意できない。フルリサイクリングを前提に、上記(iv)に代えて、当期にリサイクリングした項目と金額を、下記の表示例のように当期純損益の後に明記することを反対提案したい。この開示はリサイクリングの内容を明確にし、財務諸表利用者にとって有効な資料となるであろう。純利益およびリサイクリングに対する懸念としてしばしば指摘されるのは、経営者による利益操作の可能性である。実際にリサイクルした項目と金額を明示させることは、利益又は損失を実現した経営者の意図を推測する手掛かりになるという意味で企業分析上、有用な資料である。

なお、上記の(b)に関しては、財務諸表利用者の団体である当協会では、明確な判断は難しいと考えている。

**表示例:**

	20X7	20X6
<b>当期純利益</b>	<u>121,250</u>	<u>65,500</u>
<b>当期リサイクル額(税引き後)</b>	20X7	20X6
戦略投資株式売買損益	850	(300)
外国為替	1,100	250
数理計算上の差異	600	(900)
リサイクル額合計	<u>2,550</u>	<u>(950)</u>
<b>その他包括利益(税引き後):</b>		
XXXXXXXXX		
YYYYYYYYY		

なお、リサイクリングについての開示は注記で行うことも可能とする。

当意見書についての質問、確認などがあれば、金子 誠一 (s-kaneko@saa.or.jp) 宛に問い合わせされたい。

以 上